

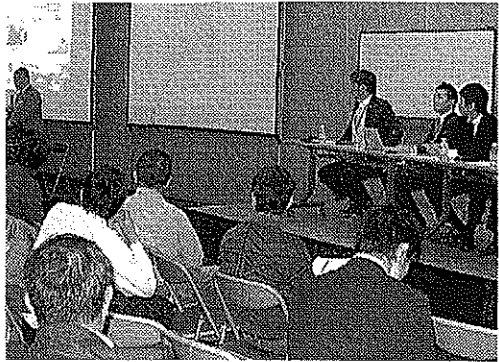
投資フェア開催 市況を解説・分析

シー・エフ・ネッツ

不動産投資コンサルタントのシー・エフ・ネッツ(倉橋隆行社長)は1月23日、東京・品川区のTOC五反田で不動産オーナー、投資家向けのイベント「新春フェア2010」を開催した。冒頭のあいさつの中で、倉橋社長は「昨年10月には大阪支社を創業。12月にはこれまでの南青山、みなとみらい、新宿の各オフィスを統合し東京・銀座に東京支社をオープンした」と業務効率を考え支社を再編したことを報告した。

現在の不動産投資市況については一地方は投資物件の稼働率が大きく下がってきている。客つけ期間が長期化しているため運営費も上がっている。その反面、首都圏は賃料も比較的安定していることや固定資産税もそれほど高くないことなどの理由で人口集中が加速し、投資市場としての魅力は増大するだろう」と話した。さらに、首都圏への一極集中が進む要因として倉橋社長は「オフィス、商業施設、住宅を融合した都市開発の流れで通勤時間が短縮されること」「羽田空港の再国際化に伴う周辺部のインフラ整備で利便性が高まること」を挙げた。

続いて「空室対策」「不動産投資の傾向」をテーマに同社社員によるパネルディスカッション「写真」を行った。「入居希望者へ向けたインパクトのある図面が空室率を左右する」という方針の下、同社の新人研修は図面作成から入居することを参加者に伝えた。同時に「見栄えのよいリフォーム」「空室の出ない建物の提供」が重要と意見が出された。



の、同社の新人研修は図面作成から入居することを参加者に伝えた。同時に「見栄えのよいリフォーム」「空室の出ない建物の提供」が重要と意見が出された。